

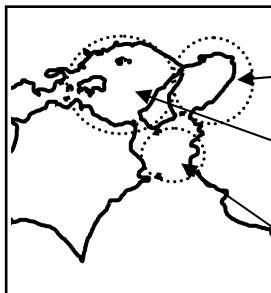
瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報（7～8月）

-平成16年6月23日～6月30日においてFAX等による連絡をもとに、別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果-

今後の見通し（2004年7月～8月）

漁場への来遊量予測（カタクチイワシ）

瀬戸内海東部海域でのシラスは前年・平年を下回る
大阪湾での小・中羽は前年・平年を上回る



<シラス>

大阪湾では前年、平年を下回る。

<シラス>

播磨灘では前年、平年を下回る。

<シラス>

紀伊水道では前年、平年を下回る。

注：平年を上（下）回るとは1994～2003年の漁獲量の平均を上（下）回ることを表す

1. 本予報は水産庁のホームページ（<http://www.jfa.maff.go.jp/>）、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ（<http://abchan.job.affrc.go.jp/>）及び瀬戸内海区水産研究所のホームページ（<http://www.nnf.affrc.go.jp/>）に掲載されます。
2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は、以下のとおりです。
水産庁増殖推進部漁場資源課沿岸資源班 担当：竹葉、狭間
住所：〒100-8907 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1
代表：03-3502-8111（内線7376） 直通：03-3501-5098
ファックス：03-3592-0759
電子メール：toru_hazama@nm.maff.go.jp
水産総合研究センター瀬戸内海区研究所企画連絡室
住所：〒739-0452 広島県佐伯郡大野町丸石2-17-5
電話：0829-55-3409 ファックス：0829-54-1216
電子メール：kiren@nnf.affrc.go.jp

参画機関

和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場
大阪府立水産試験場
兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター
岡山県水産試験場
香川県水産試験場
徳島県立農林水産総合技術センター 水産研究所
瀬戸内海区水産研究所 生産環境部
水産庁 増殖推進部 漁場資源課

瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し(2004年7月～8月)

(1) シラス(本年夏季発生群)

紀伊水道、大阪湾、播磨灘とも前年、平年(1994～2003年の平均)を下回る。

標本漁協の漁獲量から推定した灘毎の漁獲量を指標とした(図1～3)。

(2) 小・中羽(本年春季発生群)

大阪湾では前年、平年(1994～2003年の平均)を上回る。

巾着網標本船の漁獲量を指標とした(図4)。

2. 漁況の経過(2004年4月～2004年6月)および見通しについての説明

(1) シラス

2004年4月～2004年6月

紀伊水道東部(和歌山県側)では4月は前年、平年を上回る好漁であったが(標本漁協の4月の漁獲量は前年の1.9倍、平年の3.1倍)、5月以降漁獲量は大きく減少した(標本漁協の5月の漁獲量は前年の0.1倍、平年の0.2倍)。6月中旬も少なかった(標本漁協の6月中旬までの漁獲量は前年の0.2倍、平年の0.3倍)。

紀伊水道西部(徳島県側)では4月は前年を下回ったものの平年を上回る漁があった(徳島県標本漁協の4月の漁獲量は前年の0.8倍、平年の2.1倍)。しかし、紀伊水道東部と同じく、5月以降漁獲量は大きく減少した(5月の漁獲量は前年の0.2倍、平年の0.4倍)。6月中旬も少なかった(標本漁協の6月中旬までの漁獲量は前年の0.2倍、平年の0.2倍)。

大阪湾では4月22日に漁が始まった。前年、平年を大きく上回る好漁であった(標本漁協の4月の漁獲量は前年の3.0倍、平年の9.07倍)。5月も当初は好漁であったが中旬以降減少した(標本漁協の5月の漁獲量は前年の1.0倍、平年の1.7倍)。6月に入ると黒潮の離岸に伴いさらに漁獲量が減少したため、1週間程度の休漁期間があった。休漁明けも漁の回復はみられず6月下旬現在ほとんど出漁していない。

播磨灘東部(兵庫県側)では一部の漁協は5月10日より、全域では5月20日より操業を開始した。当初はまとまった漁獲量になった日もあったが(標本漁協の5月の漁獲量は前年の2.4倍、平年の4.6倍)、長続きしなかった。外海由来と思われる群れは漁獲対象にならず、漁場は地先海域が主であった。6月になってからは漁獲量が減少したため、6月11日～6月17日まで休漁した。休漁明け後も漁獲量は増加していない。

播磨灘南西部(香川県側)では6月1日から漁期が始まったが、漁期当初から6月22日現在まで不漁の状態が続いているため、午前中で漁をやめる漁業者もいた。

播磨灘北西部(岡山県側)では5月16日から漁が始まった。5月の漁は低調で出漁日数も少なかった。6月上旬の漁も低調に推移したが中旬にはやや増加した。

(2) 産卵量

紀伊水道内域、外域とも5月は前年、平年を上回っていたが、6月は前年、平年を下回っていた。

大阪湾では5月に前年を下回るものの、平年を上回る量の卵が採集されている。6月は前年を下回るものの平年並みの卵が採集されている。

播磨灘では6月は前年、平年を上回った(岡山、香川、兵庫調査集計;(図5))。

(3) 今後の見通しの説明

シラス(本年夏季発生群)

紀伊水道では6月の紀伊水道内、外域での卵の採集量は少ない。黒潮の離岸に伴い、今後の外海からの補給が期待できないため、漁の継続は難しいと考えられる。

大阪湾では、外海発生群が春から引き続き漁獲されるのに加え、内海発生群が6月以降シラスとして漁獲されるようになる。経験的に外海発生群の補給の多さが大阪湾の好不漁を決定すると考えられる。大阪湾内での卵の採集状況から、内海発生群は前年を下回るものの平年を上回ると考えられるが、大阪湾への外海発生群の補給路である紀伊水道和歌山県側での漁が減少していること、黒潮が離岸していることから判断して、外海発生群の補給に多くを期待できない。

内海発生群が漁の主体である播磨灘においては、水温が低いほど7~8月の漁は良くなる傾向がある(図6)。2004年6月の水温は高温であった(図5)。6月における播磨灘での産卵量水準と漁獲量の関係は明瞭でないが産卵量が多いほど漁獲量が多い傾向があり(図6)、2004年6月の産卵量は多かった(図5)。しかし、6月3日に香川県が実施した浅海定線調査ではカタクチイワシ卵の採集数は昨年より多かったもののプランクトンの優占種が夜光虫であり、コペポータ等シラスの餌となるプランクトンは非常に少なかった。6月16日に実施した臨時調査でもプランクトンの優占種は6月3日同様夜光虫や大型珪藻のコスキノディスクスでありコペポータは非常に少なかった。さらに漁期始めにシラスに混じって多獲された親魚の消化管内に小型仔魚がみられたとの情報もある。餌料環境の悪さ、親魚による捕食を考慮すると、産卵量の多さが直接漁獲量に反映すると考え難い。ただし、播磨灘北西部(岡山県側)では6月中旬以降の若干の漁獲の増加を見ると備讃瀬戸等からの補給の可能性は残っている。

小・中羽(本年春季発生群)

大阪湾では、本年春シラス漁で対象となった群れが成長し小・中羽となって漁の対象となる。本年春シラス漁は、後半減少したものの、平年を上回る漁であった。

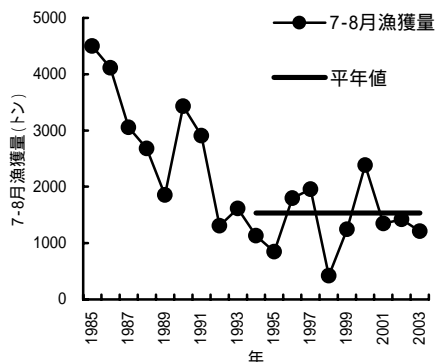


図1 紀伊水道のシラス漁獲量

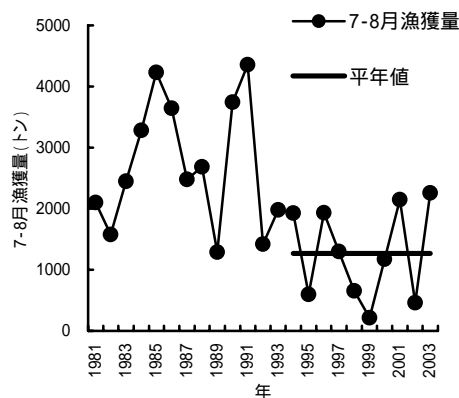


図2 大阪湾のシラス漁獲量

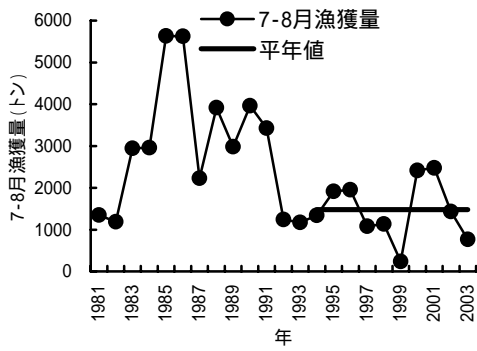


図3 播磨灘のシラス漁獲量

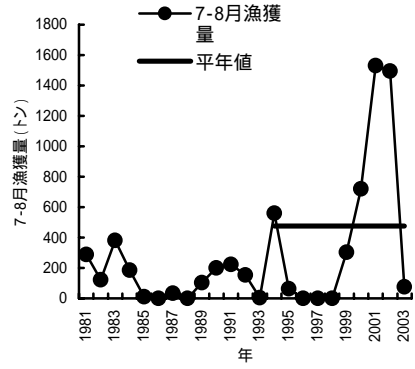


図4 大阪湾における巾着網標本船のカタクチイワシ漁

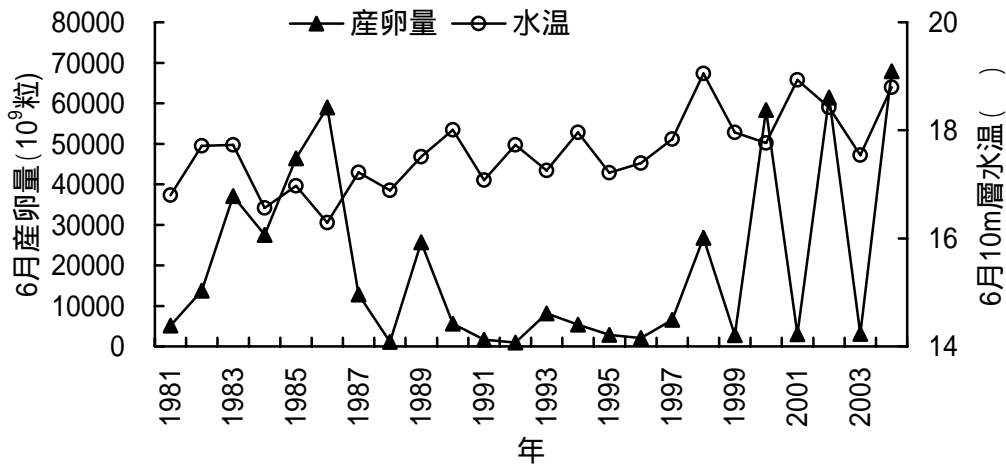


図5 播磨灘の6月の産卵量、10m層水温

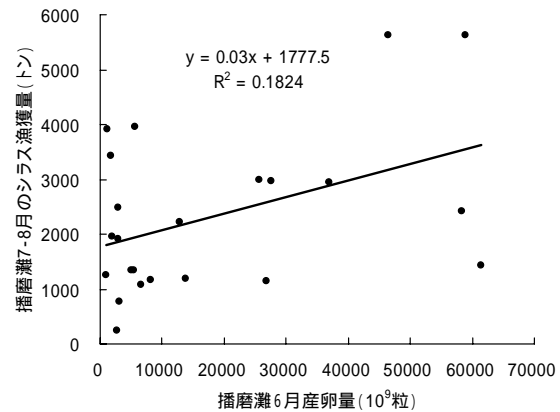
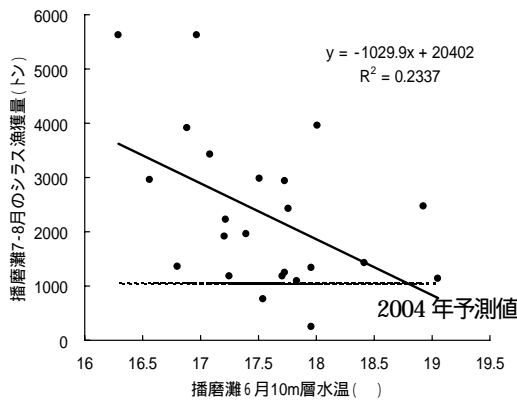


図6 播磨灘の7-8月のシラス漁獲量と6月の産卵量の関係(右図)および7-8月のシラス漁獲量と6月の10m層水温の関係(左図)